

学外実習 ( Internship )		4 年・夏季・1 単位・選択 物質化学工学科 担当 中村秀美、宇田亮子、片倉勝己
〔準学士課程 ( 本科 1 - 5 年 ) 学習・教育目標〕 ( 4 )	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-2 ( 80% ) A-2 ( 20% )	〔 JABEE 基準 〕  ( d-2d ) ( b )
〔 講義の目的 〕 学生が企業等での就業体験を通して自分自身を見つめ直し、企業や社会の実際を知ることにより、学習意欲・自律性・創造性などを向上させ、職業選択の際の意識作りに役立たせる。		
〔 講義の概要 〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受け入れ可能企業と学生の希望により、実習先を決定する。</li> <li>・ 夏季休業期間中に 5 日間・30 時間以上、実習先担当者の指導のもとで実習を行う。</li> <li>・ 実習期間中に本校教員が実習先を訪問し、実習状況を視察する。</li> <li>・ 実習を終えた後、速やかに学外実習修了証明書、業務日誌、学外実習報告書を提出する。</li> <li>・ 実習報告会を実施し、実習者は学外実習報告書に基づき発表する。</li> </ul>		
〔 履修上の留意点 〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学外実習の意義と目的を十分に理解して、実習に臨むこと。</li> <li>・ 実習期間中は実習先の指示に従い、安全には十分気を配って実習を行うこと。</li> <li>・ 服装や言葉づかいなど、実習におけるマナーを守ること。</li> </ul>		
〔 到達目標 〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来に向けた職業意識の形成を図る。</li> <li>・ 実践現場における就業体験により自己能力の開発を促す。</li> <li>・ 就業体験を通して技術者としての心構えを身につける。</li> </ul>		
〔 評価方法 〕 実習先での学外実習修了証明書及び業務日誌 ( 50% ) 学外実習報告書 ( 25% ) 及び学外実習報告会 ( 25% ) を総合して評価する。		
〔 教 科 書 〕 事前のガイダンス資料を参考にする。		
〔 補助教材・参考書 〕 昨年度までの学外実習報告書 ( 冊子体 ) 。		
〔 関連科目・学習指針 〕 一般科目、専門科目を問わず、これまでに学んだ全ての科目が関連する。事業所 ( 企業等 ) と学校の連携による創造的技術者の育成に役立つ科目なので、積極的かつ真面目に取り組めば、大きな成果が得られる筈である。		

## 講義項目・内容

項目番号	項目	内 容	自己 評価*
1	学外実習ガイダンス	資料配付「インターンシップ(学外実習)ガイダンス資料」	
	5月	1. インターンシップとその教育的意義	
		2. インターンシップ実施の前提	
		3. 実施時期: 夏季休業期間中	
		実施期間: 連続5日間(30時間)以上	
		実習内容: 研究補助・品質管理・材料試験・設計・生産技術・生産管理など	
		4. 就業条件及び報酬	
		5. 守秘義務	
		6. 賠償責任	
		7. 単位認定・成績評価	
		8. 今後のスケジュール	
2	実習先決定	1. 回答をいただいた受け入れ可能実習先を順次提示	
	6月	2. インターンシップ(学外実習)申込書(写真貼付)を提出	
		3. 実習先希望調査 調整	
		4. 誓約書提出	
3	インターンシップ保険 加入手続き	・学生課でインターンシップ保険加入手続き	
	7月		
4	学外実習事前指導講習 会(特別講演)	1. 全学科対象で実施	
	7月	2. 物質化学工学科としての事前指導も実施	
5	学外実習	1. 事業所でのオリエンテーション	
	7~8月	2. 実習	
		3. 業務日誌を付けて毎日事業所の担当者に提出	
		4. 学外実習報告書の作成	
6	報告書等の提出	1. 学外実習修了証明書	
	9月	2. 業務日誌	
		3. 学外実習報告書	
7	学外実習報告会	1. 物質化学工学科教職員、3C及び4C学級担任が出席し、	
	9月	評価	
		2. 3C, 4C学生が出席	
8	学外実習審査会	学外実習修了証明書及び業務日誌(50%)、学外実習報告書(25%)及び学外実習報告会(25%)を総合して評価する。	
	9月		

\* 4:完全に理解した, 3:ほぼ理解した, 2:やや理解できた, 1:ほとんど理解できなかった, 0:まったく理解できなかった.  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)